

パターン4(失望、憂うつ、億劫など)

『LF成分、HF成分がともに低い画像情報』

画像情報からLFとHF成分がいずれも低く、山下分類のパターン4と判定された七名の方々について解説します。七名の方々は、パターン2の心因反応と同様に、抑うつ状態に陥る際、程度の差はあれ、何らかのエピソードが関係しているように思えます。その反面、心理・社会的ストレスに基づく心因反応の方々とは、次のような点で異なる印象を受けました。

話し方:アクセントに乏しい口調で、落ち込んでしまった心境や体調不良を、弱々しく訴えられ、受け答えも単調で言葉数も少ない。

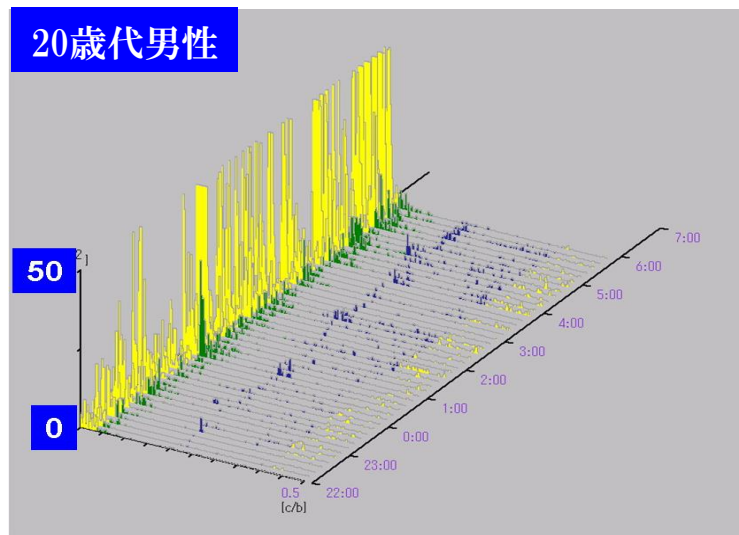
表情:魂でも抜かれたかのように、やつれ果てた表情(無表情)。

返答内容:考えがまとまらないせいか、問いかけに対し戸惑いを隠せない様子で“分からない、分かりません”と返答される、記憶が飛ぶ(注意集中能の低下)、“自分がいるため家族に迷惑をかける、生きてても役に立たない”という悲観的な思いこみ(微小妄想)など。

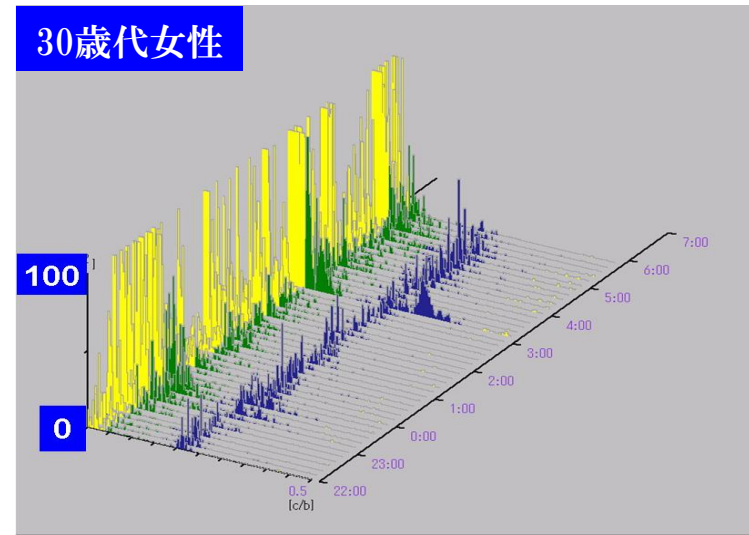
周囲(環境)との関係:会社を休んでいるのに気分が楽にならない、どこで何をしても憂うつで気分が晴れない(抑うつ気分が環境の変化に左右されにくい)。

日常生活(行動)面: 普段、何げなくこなしていた家事(洗濯、炊事など)、お風呂に入らなくては、起きて立って歩いてと思いながらも、億劫なためできない(精神運動制止)、テレビや新聞もみる気になれない(無関心)、ぼんやりして一日中横になっている(茫乎無為)、空腹感を覚えないため食事の摂取量が極端に少ない(体重がわずか一ヶ月足らずで5kg以上減るような病的体重減少)、しかたなく食事を口にしても、砂をかむようで美味しくくないなど。

LF成分とHF成分がともに低い画像情報の実際

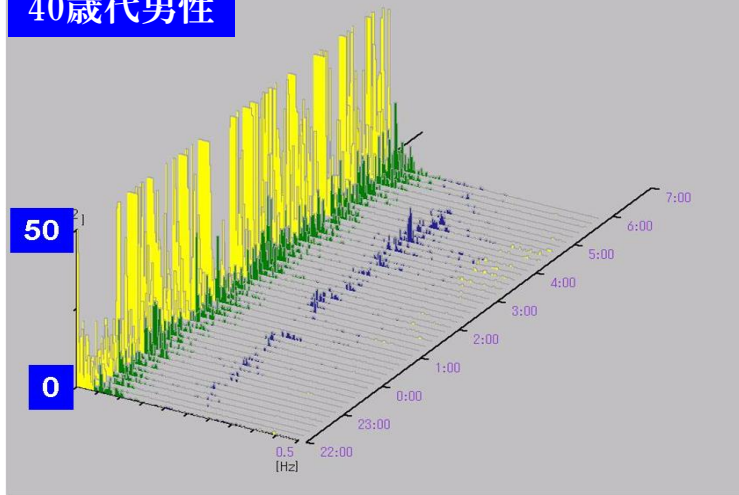


①LF成分:83、②HF成分:23
③LF/HF:3.7、④総成分:733



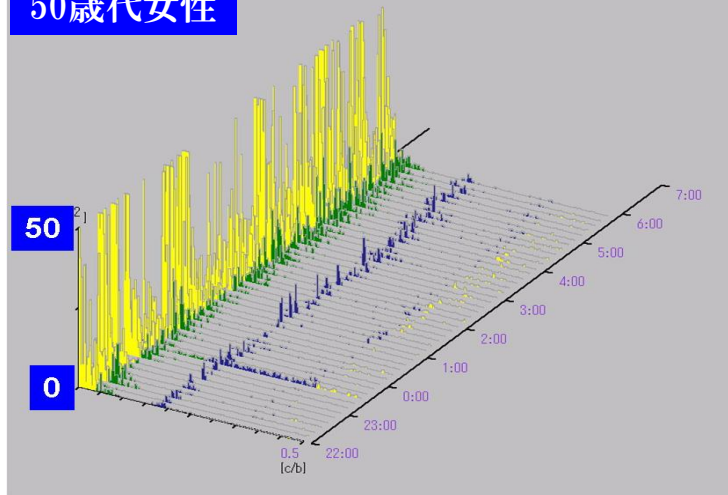
①LF成分:139、②HF成分:135
③LF/HF:1.0、④総成分:1484

40歳代男性



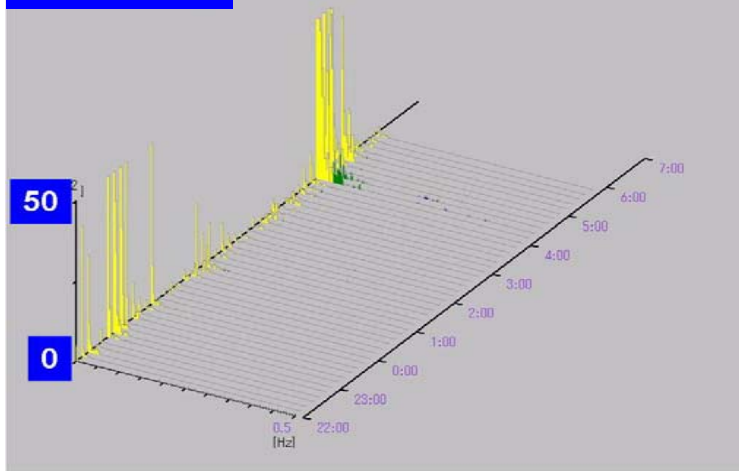
- ① LF成分: 60
- ② HF成分: 23
- ③ LF/HF: 2.6
- ④ 総成分: 804

50歳代女性



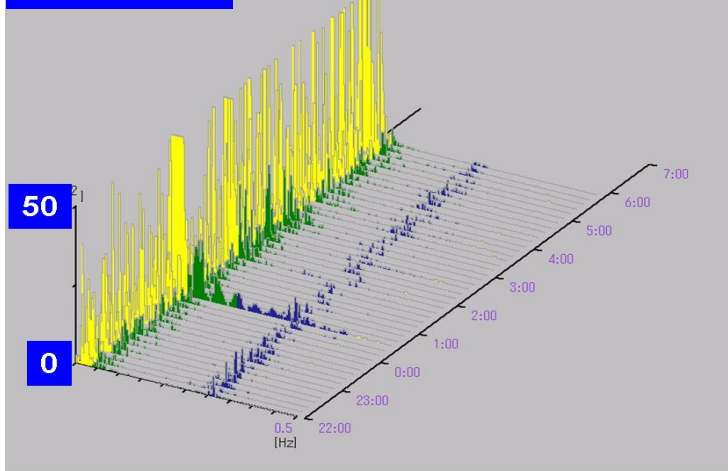
- ① LF成分: 37
- ② HF成分: 30
- ③ LF/HF: 1.2
- ④ 総成分: 843

50歳代女性



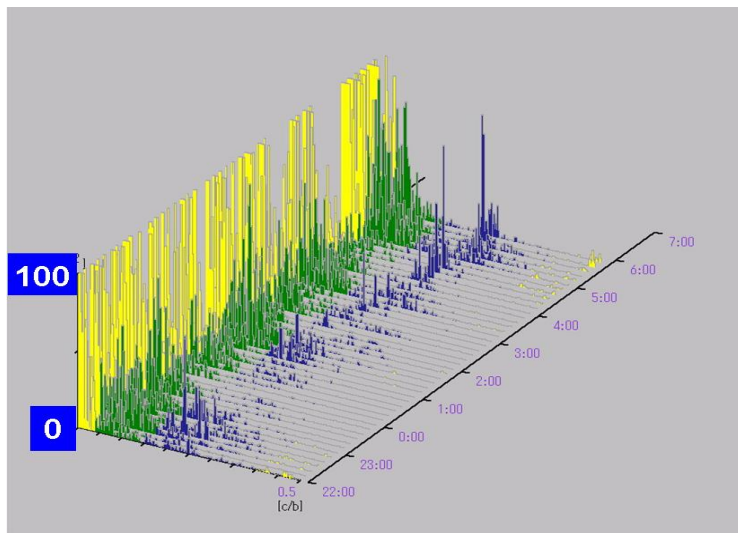
- ① LF成分: 3
- ② HF成分: 3
- ③ LF/HF: 1.2
- ④ 総成分: 135

50歳代女性



- ① LF成分: 45
- ② HF成分: 30
- ③ LF/HF: 1.5
- ④ 総成分: 389

度重なる喪失体験に見舞われた40歳代の男性

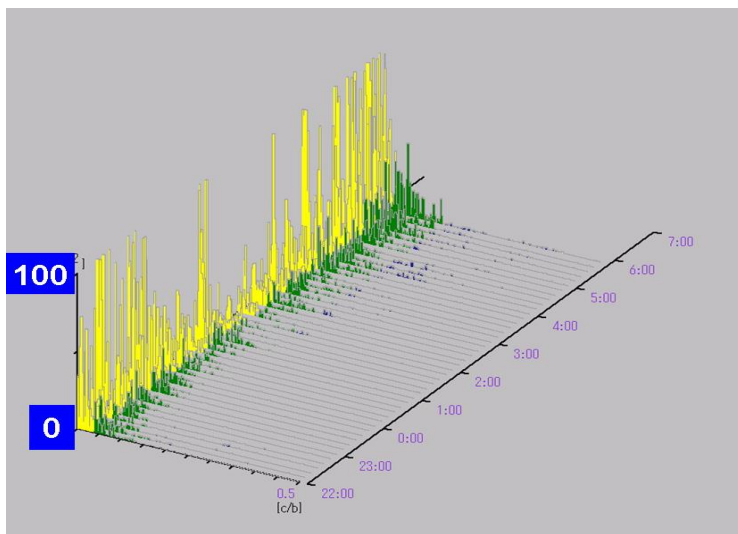


数ヶ月ほど前、ある事情で職場を去ったスタッフのことが頭から離れず、仕事も滞るようになる。その後は、気分が晴れず、不眠による易疲労感、仕事に集中できない、食欲がなく、前日の記憶も一部思い出せなくなる状況に陥り初診。

- ① LF成分: **380**
- ② HF成分: **139**
- ③ LF/HF: **2.7**
- ④ 総成分: **2739**



数ヶ月後のパワースペクトル画像



抗うつ剤を投与して数ヶ月が過ぎた頃、親族の訃報にショックを受ける。以後は、全身がだるく、“何をするわけでもなく、何をする気もなく、ただただやる気が湧かない、横になりぼんやりして過ごす毎日”と言われました。

- ① LF成分: **112**
- ② HF成分: **21**
- ③ LF/HF: **5.3**
- ④ 総成分: **824**

心理・社会的ストレスを契機にパターン4の反応を示され、うつ病(ことに生氣的)と診断された方々は、パターン2と比較しますと、次のような相違と類似があげられます。

- i .パターン2は、**LF**、**HF**成分がともに高くなりますが、パターン4では、逆に両成分が低くなります。
- ii .パターン2、4の**LF**成分と**HF**成分の相対的關係についてみてみますと、両者のパターンは、**LF**成分が優勢であるという点で類似します。したがって、パターン2、4に該当する方々は、抗うつ剤を投与する以前から、脈が速くなりがちです。